

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 1月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 立川若葉町教室

保護者等数(児童数) 33 回収数 30 割合 90 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	28			2		児童数により、外出活動組、室内活動組に活動を分ける対応等を行っている。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	25	3		2		職員間で利用児童の情報を共有し、支援法を考え各児童に対応している。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	16	3		11		簡易型のスロープを用意している。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	27	2		1	身辺自立の支援、進路や受験に対する支援を丁寧に行っている。	事業所での児童の様子を保護者に伝え、保護者から日々の児童の様子を聞き取る。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	29	1			家庭では経験できない色々なことを体験できる。	利用する児童に合った活動を日々提供している。そのために、日々職員間で児童に合った療育を考え、実践している。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	5	8	4	13		今後、児童館等との交流の機会について検討する予定。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	29			1	都度、細かく説明をしているので不明点はない。	契約時、面談時、メール、電話等で対応している。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	29	1				HUGの連絡帳や送迎時の話で、保護者と児童についてよく話し合いをし、その結果を職員間で共有して支援を行っている。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	24	5		1		保護者からのメールや電話などで直ぐに職員間で共有をし解決策を考え、保護者に伝えるようにしている。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	6	5	10	9	今のところ、保護者会等の開催の必要性はない。	保護者に保護者会等の必要性についての意見を伺った上で開催の有無について検討をする予定。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	23	2		5		日々の療育を考える時に、苦情になりそうなものを事前に職員間で確認し対応策を考えなるべく苦情が発生しないように務めている。その上で、苦情が発生した場合は謝罪と今後の対応策を保護者に迅速に伝えている。
	12 子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	29			1		予定等を事前に保護者や児童に伝えて児童が見通しを持てるようにしている。又、保護者に児童の意思疎通手段を確認している。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	29			1		毎月、配布しているお便りで保護者に情報の発信を行っている。
非常時 等の 対応	14 個人情報に十分注意しているか	26	1		3		保管が必要な個人情報は鍵付き書庫で保管し、不要になったものはシュレッダーで破棄している。
	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	23	1		6		マニュアルの策定はしているが、周知をしていないので、今後周知を行っていく予定。
満足 度	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	28			2		定期的に、地震、火災、不審者等に対応した防災訓練を行っている。また、その内容もお便り等で保護者に伝えている。
	17 子どもは通所を楽しみにしているか	25	4		1	調理の経験ができてよい。また、様々な活動を通して児童に自立した様子が見えてきた。	児童が楽しみそうなことを考えて、それを療育に取り入れるように職員間で工夫している。
	18 事業所の支援に満足しているか	27	3			長期休みの開所時間が通常時と異なるのでフルタイムの共働き家庭にとっては利用しにくい。送迎時間に融通が利か利くのは良い。	保護者や児童からどんなことをしたいか等のニーズの把握を行っている。

428 39 14 59

79%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 20日

事業所名 こぱんはうすさくら 立川若葉町教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	パーティションなどを使い環境を区別している	利用者が増えて日によって狭く感じるため、室内活動と外出活動に分けて活動をする。
	2 職員の配置数は適切である	4	0	適正配置に加えて、全職員で児童の個性を把握して、どの職員でも通所してきた児童に対応できるようにしている。	利用者増により安全な見守りに必要な人員を確保していく
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	0	簡易的なスロープ等を用意して車椅子に対応できるようにしている。	スロープの保守点検を行う
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	0	業務改善のために定期的に話し合いを行い、業務上の役割分担の確認と運営上の課題の解決策の発見に取り組んでいる。	実施・継続していく
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	保護者の意見をもとに、療育活動が固定化しないように取り組んでいる。	職員全員で周知確認を行う
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	ホームページで公開している。	継続していく
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	4	有償だとなかなか予算が取れない。できれば実地調査チームのような事業所をまんべんなく見ていただける評価チームを作っていたきたい。	今後、実施予定。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	虐待研修、ケース会議等で改善している。	外部研修の機会が少ないため、今後は取り入れていきたい。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	児童の様子を日々、職員間で共有して課題を見つけて課題のクリア方法を考えている。	実施・継続していく
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0	4	標準化されたアセスメントツールは使用していないが、日々の児童の様子を職員間で共有し、児童の行動パターン等を考えて支援を行っている。	学校などの支援ツールなども用いていく
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	翌週のプログラムを前の週に2名の療育担当係が決めた後、職員全員で修正等を行いより良い活動ができるように工夫している。	実施・継続していく
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	同じプログラムでも児童により、できることに差異があるので、その都度職員間で話し合いプログラムの内容に幅を持たせている。	実施・継続していく
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	0	平日は個別課題と集団療育活動の二つをコンパクトに行っている。活動時間の長い長期休暇等は、公共交通機関で外出をしている。	実施・継続していく
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	日々の児童の様子を職員間で共有して、定期的に話し合い、児童の個別活動と集団活動の内容を状況に応じて変更している。	実施・継続していく
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	週末に翌週の支援について話し合い準備を行う。そして、支援の当日の朝のミーティングで、支援についての最終確認をする。	実施・継続していく
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	当日又は翌日に支援についての振り返りを行い、支援の改善に繋げている。	職員の共通認識に向け定着させていく
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	支援終了後の当日又は翌日に振り返りを行い支援の改善等を記録している。そして、改善に基づき次からの支援を行っている。	職員の共通認識に向け定着させていく
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	0	日々の児童の様子を職員間で共有して、児童の支援方法について定期的に話し合い、変更等を行う。	ケース会議などの頻度を増やしていく
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	0	放課後等デイサービス計画に基づき、身辺自立、創作活動、地域との交流の機会の提供、余暇の過ごし方の支援を行っている。	自己選択の機会もより増やしていきたい
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	児童の状況に精通している職員が支援について発案を適宜行っている。	関係者会議への参加を増やしていく
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	0	児童とその家庭の状況に応じて臨機応変に行っている。	実施・継続していく

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	4	医療ケア児はいないが、肢体不自由の子供とは医療センターの方からいただくことがある。受動的にならないよう積極的に連絡を取ってきたい。	医ケア児を対象としていないので連絡体制は整えていない。職員の体制が整い次第、体制構築について協議する予定。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	4	同事業所内からの移行児童については、情報を引き継ぎを行う	小学4年生以上を対象とした事業所なので行っていないが、支援の改善のために連絡体制の構築について協議する予定。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	4	市内の作業所などの定員状況などを把握する	学校を卒業する児童がまだいないので行っていないが、今後行う予定。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	4	現在、助言指導を頂くケースがなく未実施	今後、機会があれば受けることを検討している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	0	定期的に行っていないが、児童館の利用や地域のバザー等に行っている。	定期的に行っていないので、今後は地域との交流の機会を定期的に行うようにしていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	4	参加の機会を設けていないので今後検討	機会があれば受けることを検討している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	帰りの送迎時等に、児童の様子を保護者に伝えた時に、家庭における児童の様子や課題を把握するように努めている。	情報を集約・伝達の正確性を高めていく
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	4	保護者様のご相談から解決策をお伝えしている	事業所内で保護者について共有をし、今後ペアレント・トレーニングの研修等を受けることを検討している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	メール、電話、面談時、契約時に行っている。	継続していく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	電話、メール、面談時に行っている。また、帰りの送迎時に保護者から家庭での児童の様子や児童に関する悩みを聞き出し、職員間で共有し、支援の検討、助言を行っている。	新たな気づきや支援課題・方法の見直しの機会として認識していく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4	IT活用を行うなどにより、対面式以外でも実施を検討	コロナ、インフルエンザ等の流行のため中止しているが、状況が落ち着き次第、保護者会等の開催について協議をする予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	電話、メール、面談時に苦情が上がった際、職員間で直ぐに話し合いを行い、対応している。また、日々のミーティングや振り返りでクレームになることは無かったかの確認を行っている。	実施・継続していく
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	毎月、お便りを配布するときに予定表も配布している。また、詳細を伝える必要がある活動の場合は、メールで詳しいことを説明している。	分かりやすいお便りの方法を検討していく
	35	個人情報に十分注意している	4	0	鍵付き書庫で個人情報は厳重に保管している。また、不要となった個人情報はシュレッダーで処分している。	実施・継続していく
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	児童と保護者に事前に予定を伝えて事前に見直しを持ってようとしている。情報伝達の工夫として絵カードを使用することもある。	他施設・学校などの取り組みも参考にしていく
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4	午前中の施設開放なども視野に入れていく	コロナ等の感染症の流行のため、中止していたが、今後は地域住民との交流の機会を作れるように検討していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	0	4	マニュアルを策定、職員間で確認をし備える	マニュアルは作成しているが、保護者への周知はしていない。今後、面談時や帰りの送迎時等に周知を行う予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	火災、地震、不審者に対応した防災訓練を定期的に行っている。	様々な状況に対応できるように訓練を行う
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	定期的に事例検討をベースにした虐待防止の研修を行っている。	日常的な視点として定着させていく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	0	身体拘束をしないで済む支援方法を職員間で考えた上で、身体拘束を行う場合を考えている。支援方法と身体拘束をする場合の状況等を保護者に電話や書面で伝えた上で、個別支援計画又は同意書に署名してもらう。	身体拘束排除に向けた職員の技術向上を図る
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	保護者に確認をし職員間で共有し対応している。	徹底していく
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	振り返り時にヒヤリハットの有無を確認している。ヒヤリハットがあった場合、直ぐに職員間で対応策を考えている。	事例集を作り、対策を検討する